

令和2年度事業報告に関する件

(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

全 体 概 要

I 概 要

令和2年度は、コロナウイルス感染症の拡大により、世界規模で社会経済全体が大きな影響を被った年となった。コロナ禍は令和3年度においても継続し、変異株の感染が急速に拡大する中、各地で再三にわたる緊急事態宣言が発出されるなど、人の移動と集まりが制限され、観光・MICEをはじめ幅広い産業や文化活動、市民生活に甚大なマイナスの影響を及ぼしている。

京都観光においても、令和元年度終盤から影響が出始め、これまで好調であった国際会議の京都での開催件数も大きく後退し、令和2年度は、本財団の賛助会員の多くを占める宿泊、販売、飲食等のどの分野においても対前年比でこれまで経験したこともないほどの大きな減収、落ち込みとなった。こうした状況を鑑み、賛助会費の軽減措置等を実施しているが、情報交換やコミュニケーションの機会が減少したこと等もあり、退会や会費減免の申し出が相次いだ。

これに対し本財団としても、コロナウイルス感染症の影響を最小限にとどめ、収束後の回復に備えることに努めた。安心・安全な京都を実現するための取組や、先行きは不透明ながら、感染状況に加え、世界の政治・経済全体の状況など幅広い情報収集・統計資料の整備に努め、会員はもとより MICE 開催主催者や関連事業者への必要な情報提供や支援ツールの適用など、京都府・京都市・関係各機関と連携してできる限りの対策を講じた。また、経営状況の厳しい会員の皆様には個別の事情を踏まえた丁寧な対応に努めたところである。

令和2年度は、このように誠に厳しい財団運営であったが、将来に向けた礎を築いた年でもあった。令和3年3月に開催された「第14回国連犯罪防止刑事司法会議（京都コンGRES）」は、コロナウイルス発生以降、我が国で最初に開催された国際会議であり、本財団は京都実行委員会の事務局を務めた。こうした支援経験を踏まえ、安心・安全を基本に京都らしいMICEに向けた京都モデル構築という成果を得ることが出来た。このことにより本財団のプレゼンスは更に向上し、ウィズコロナ・アフターコロナ下での MICE 開催支援に向けての新たな一歩を踏み出した。

また、古典の日推進委員会は、令和元年度には節目の設立10周年を迎え、令和2年度に新たな一歩を踏み出した。この記念すべき年に、古典の日推進委員会の取組に対し、文化庁長官より村田会長に感謝状が授与された。この上に立って、令和2年度には、古典の

日・古典文化の更なる展開を目指して、全国各地で古典文化の研究実践、普及、啓発活動に取り組む人々を顕彰する、「古典の日文化基金賞」を創設し、各地域における多彩な固有の古典文化の募集を開始した。

全体として、飛躍的な進歩を遂げた令和元年度から、一気に試練の時を迎えた令和2年度であったが、課題の克服に努めながら次の飛躍に向けて様々な連携を強め、基盤強化を進めた年でもあった。

以下重点施策ごとに令和2年度の取組状況をまとめた。

Ⅱ 5つの重点施策別の取組状況

1 文化・観光クロスオーバーの推進

文化財を活用した MICE のユニークベニューや伝統芸能や伝統産業品を活用した国際会議参加者へのもてなしなどに努めてきたが、コロナ下において従来通りの開催は困難な状況であった。

しかしながら、昨年11月の京都市内の主要ホテルの客室稼働率は63.2%と、インバウンドがほぼ0の状態、国内客のみの宿泊で回復したことは、京都の持つ長い首都の歴史と豊かな文化資産が、観光客をひきつける他に類を見ない魅力であり、文化と観光の双方を推進する本財団の重要性を改めて確認できた。

こうしたことから、社寺文化財の公開が感染状況によって流動的となる中、情報紙「四季彩京都」の紙面にQRコードを活用、最新情報を確認できるよう工夫・改善した。

また、京都ゆかりの文学作品の舞台をつなぐ「文遊回廊」事業を継続し、インバウンドが止まった状況において、国内観光や市民によるマイクロツーリズムの深掘りに努め、京都迎賓館での伝統工芸品等を活かした記念品の販売とも相まって、文化・観光のクロスオーバー推進に努めた。

2 観光・MICE戦略の推進

コロナ感染拡大による影響や規制を受けての中止・延期が相次ぎ、令和2年の国際会議開催件数は28件、対前年度比92.7%減と大きく落ち込んだ。

このような状況を踏まえ、京都市が新たに創設した国内会議も対象とした開催支援制度や「施設」等を対象とした安心・安全対策等を活用して開催支援や誘致に努め、コロナ禍の中ではあったが、11件の大規模国内会議を開催するとともに、将来に向け大型国際会議の誘致活動を進め、次へのステップの礎を築いた。

また、コロナの影響を最小限に止めつつ京都らしさを出した、ウィズコロナ社会の新たな MICE スタイル・ルールを確立するため、京都市の「安心・安全な MICE 開催支援事業」と共同し「MICE 京都モデル（第一版、第二版）」を策定・公開した。

安心・安全な MICE 開催が出来ることを前提に、オンラインやバーチャルによる開催が相次ぐ中でも、現地に集いたくなるような魅力ある開催地であり続けるため「京都 MICE 基金」を創設した。質の高い MICE 開催と同時に京都の伝統文化をアピールし、都市ブランドを高める為に活用するもので、主催者、参加者に加え、多くの市民・企業にとって価

値あることを訴求し、賛同される方々からの寄附の受け皿としていきたい。

また、インバウンドがストップする中、国内観光・MICE を重視、とりわけ修学旅行については MICE の E を Education と位置付け、京都府の修学旅行3密防止対策支援事業を活用するなど、実施に向けた支援に努めた。

3 国際観光と広域観光の連携推進

コロナ収束後のインバウンド回復に向け、京都市観光協会と共同して、海外への情報発信や情報分析、オンライン旅行博への参加を行うとともに、ガイドの育成や従業員研修などの基盤強化を図った。

宇治茶のプレミアムブランド化については、バリの宇治茶愛好・応援ネットワーク組織メンバーへメッセージ等を送付し、「お茶の京都」など広域連携のネットワーク強化に努めた。

また、2022年に宮崎で開催予定のアジアゴルフツーリズムコンベンション（AGTC）のポストファミトリップの京都誘致に向け、京都府や京都市、その他関係自治体や関係団体等と連携し積極的に取組み、開催地に選定された。

4 京都迎賓館への支援

コロナ下で、来訪される国賓も少なく伝統文化を生かした「和のおもてなし」が困難となった。参観者についても、「GOTO トラベル」効果で秋には回復の兆しが見られたものの、相次ぐ緊急事態宣言による参観休止が長引き、激減した。オリジナル記念グッズの販売も前年の4分の1程度まで減少したが、この間に新商品の検討を重ねるとともに、京都迎賓館を周知するポスターや地下鉄掲示用のステッカーを作成、京都の主要駅や地下鉄車両内等で掲示し、再開後に向けた準備を進めた。

5 古典の日の全国展開

全国規模で「古典の日に関する法律」の制定に尽力、方丈記800年や琳派400年記念祭等についてオール京都で推進を図ってきた「古典の日推進委員会」は2019年に創設10周年を迎え、多彩な催事や受賞で節目となる年を飾った。

令和2年度は、新たな一步を踏み出す年にふさわしく、10年間の総括として、文化庁長官より村田会長に対し、「文化庁長官感謝状」が授与された。

また、次の10年に向けて、日本の古典文化の研究・普及・啓発活動等に貢献した国内外の個人、法人、団体を顕彰する「古典の日文化基金賞」を創設し、創設日の9月3日には、冷泉家時雨亭文庫において創設記者会見を実施した。表彰初年度となる令和3年度は「文学・思想分野」「伝統芸能・音楽分野」「美術・生活文化分野」に加え「芳賀徹記念・古典の日宣言特別賞」を設けており、表彰に向け募集を開始した。「古典の日」が京都はもとより、多彩な固有の古典文化を有する全国各地、各地方において大きく発展、展開していくための大きな一步を踏み出した。

「古典の日フォーラム」「古典の日朗読コンテスト」は、コロナウイルス拡大防止の観点から、令和2年度は一体的に実施し、会場での観客数を制限するとともに、WEBも活用し実施したが、総視聴回数も千回を超え、WEB併用開催の可能性と効果を実感できた。

連続講座「街かど古典カフェ」も6月初旬開始分は延期したが、秋には宇治市内で、源

氏物語の現代語訳を完成された作家の角田光代氏を迎え実施した。

文化庁地域創生本部との連携により全国への発信を強化するなど、引き続き古典の日の普及啓発に努めた。

部門別概要

I 文化交流発信事業（公益目的事業）

1 古典の日推進事業

（1）「古典の日」普及・定着のための事業

千年の時を越えて読み継がれる古典文学の傑作『源氏物語』に焦点をあて、様々な角度からその魅力に迫る事業を実施した。実施にあたり、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策を取りながら、入場数を制限するなどしての開催となった。

また、古典の日推進委員会は、長年に亙る「古典の日」の普及活動に関する貢献に対して、文化庁長官から感謝状をいただくこととなり、「古典の日フォーラム2020」に於いて、贈呈式が行われた。

① 「古典の日フォーラム2020」

天理大学雅楽部・おやさと雅楽会による舞楽、古典の日朗読コンテスト大賞受賞者による『源氏物語』の朗読披露。また、源氏物語研究で注目を集める山本淳子氏から、紫式部の語りと和歌を通した『源氏物語』の読み解きを解説いただくとともに、笙、篳篥、中国古箏や篠笛で奏でる『源氏物語』の音の世界に、手拍子で会場が沸き上がった。

◇11月1日（日） 13時～16時 京都テルサ テルサホール

◇参加者 336名

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の為 観客数を制限し、WEB配信を行い「古典の日」の周知に努めた。

生中継利用者

総視聴者数：402名 最大同時視聴者数：71名 チャンネル登録者数：11名

総視聴回数：1,040回

◇概要

- ・源氏物語の世界・I～舞楽「青海波」～
天理大学雅楽部・おやさと雅楽会
- ・古典の日宣言
武村陽向（第11回古典の日朗読コンテスト
【中学・高校生部門】大賞受賞者）
- ・文化庁長官感謝状贈呈
宮田亮平（文化庁長官）
- ・主催者挨拶
村田純一（古典の日推進委員会会長）



- 来賓祝辞
宮田亮平（文化庁長官）
- 源氏物語の世界・Ⅱ～第12回古典の日朗読コンテスト大賞受賞者による朗読～
「若紫」【中学・高校生部門】橋本夏果(和歌山県立桐蔭高等学校3年生)
「御法」【一般部門】北村優子（京都府）
- 源氏物語の世界・Ⅲ～講演「『源氏物語』の語り
と和歌」～
講師：山本淳子
（京都先端科学大学 人文学部教授）
- 源氏物語の世界・Ⅳ～王朝の音色を楽しむ～
コーディネーター：東儀秀樹（雅楽師）
東儀典親（東儀秀樹氏長男）
×野護元（雅楽演奏家）
伍芳（中国古箏演奏家）
佐藤和哉（篠笛奏者・作曲家）



② 「第12回古典の日朗読コンテスト」

定家本「若紫」の新発見を記念し、『源氏物語』から名場面「桐壺」「若紫」「紅葉賀」「初音」「御法」5箇所を山本淳子先生（京都先端科学大学人文学部教授）に選出していただいた。

コロナ禍の影響を危惧していた応募数は、例年と変わることなく全国から400名を超える応募があった。毎年、第1次・2次審査を通過した中学・高校生部門及び一般部門の方が、最終審査会に於いて朗読を披露し、各受賞者を決定するが、今年度はテープ審査により各受賞者を決定し、「古典の日フォーラム2020」に於いて、各部門の大賞受賞者に朗読を披露していただいた。

また、本コンテストの【中学・高校生部門】大賞及び京都府高等学校文化連盟会長賞受賞者が、全国高校生伝統文化フェスティバルで朗読を披露し、オンラインで配信された。

③ 「古典の日文化基金賞顕彰委員会」創設

11月1日が「古典の日」として制定されたことを記念し、彬子女王殿下を名誉総裁に推戴し、日本の古典文化の研究、普及、啓発活動等に貢献した個人、法人、団体を顕彰し、古典の日の推進に寄与することを目的として「古典の日文化基金賞」を創設した。

創設日の9月3日は、『更級日記』の冒頭、菅原孝標の娘が、『源氏物語』に憧れを抱き、希望に満ちて上総国から京へと門出した日を選定。

「古典の日文化基金賞」創設記者会見

◇9月3日（火）13時～14時

◇冷泉家時雨亭文庫

◇取材 [新聞／出版関係] 17社 20名
[ムービー] 4社 11名

◇概要

- ・概略説明 山本壯太（候補者情報調査会座長）
- ・主催者挨拶 村田純一（古典の日文化基金賞顕彰委員会会長）
冷泉貴実子（古典の日文化基金賞選考委員会委員）
東儀秀樹（古典の日文化基金賞選考委員会委員）
小林一彦（古典の日文化基金賞候補者情報調査会委員）
- ・来賓挨拶 三木忠一（文化庁 地域文化創生本部事務局長）
西脇隆俊（京都府知事）
門川大作（京都市長）
- ・ポスターデザイン及びロゴ披露 久谷政樹（グラフィックデザイナー）



④ 「街かど古典カフェ」連続講座Ⅰ・Ⅱ

一流の講師を囲み、趣のある空間で、古典をより深く、より掘り下げて学ぶ連続講座の実施。

Ⅰ. 「京の『粋』を創る男前（ひと）たち」リレー講演会（連続5回シリーズ）

昨年度に開催した京の女性たちによる第2弾として京の伝統を担う男性陣によるリレー講演会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により延期した。（令和3年度NHK文化センター京都支社にて開催予定）

Ⅱ. 『源氏物語 宇治十帖』連続講座〈2回連続シリーズ〉

多くの日本の文豪が現代語訳に挑む『源氏物語』。作家の角田光代氏は長い年月をかけ『源氏物語』の現代語訳を完結された。第1回は、宇治十帖の舞台となった宇治の地を訪れての感想や長編小説に向き合ってきた話を、また、第2回は『紫式部ひとり語り』の著者・山本淳子氏に『源氏物語』に描かれた人々の出家や救済について、平等院が象徴する浄土信仰への紫式部の思いと共に独自の観点でお話いただいた。

◇会場 平等院 浄土院

◇[第1回] 11月25日（水）14時～15時30分

講演「源氏物語—すれ違う男と女の心情」

講師：角田光代（小説家）×聞き手：家塚智子（宇治市源氏物語ミュージアム学芸員）

○宇治市源氏物語ミュージアム自由見学



◇[第2回]12月2日(水)14時~15時30分

講演「『源氏物語』の出家・浄土・心の救いー紫式部の思いー」

講師：山本淳子(京都先端科学大学 人文学部教授)

○平等院解説(平等院ミュージアム鳳翔館学芸員)及び自由見学

(2) 情報発信・広報活動等

・「古典の日」ホームページ

全国に向けた「古典の日」の発信と、「イベントカレンダー」に於いて、催し物等に関する情報の提供を行った。コロナ禍の影響で、開催の中止及び延期のお知らせが相次ぎ、イベントカレンダーが文化活動で埋まる日が1日も早く来ることを祈りながら配信を続けている。

また、古典の日に関連する事業を実施する全国の自治体、図書館、文化会館等の団体、個人の情報ターミナルとなる「古典の広場」への会員登録のよびかけを継続し、会員向けの特典である「古典の広場アカデミア」に所属する京都在住の古典に係る講師陣を全国の皆さんに紹介している。

・古典の日絵巻第九巻「古典作品で楽しむ和菓子」

虎屋の和菓子資料館、虎屋文庫に勤務され、和菓子関係の展示や機関紙の編集を手掛ける中山圭子氏に、古典文学作品に登場する和菓子についての興味深いエピソードを紹介いただいた。

- [4月] 『枕草子』とかき氷
- [5月] 『源氏物語』と椿餅
- [6月] 『土佐日記』とまがり
- [7月] 『宇治拾遺物語』とかいもち
- [8月] 『文蔵』と羊羹
- [9月] 『醒睡笑』と饅頭
- [10月] 『日本永代蔵』と金平糖
- [11月] 『助六由縁江戸桜』と煎餅
- [12月] 『金々先生栄花夢』と栗餅
- 2020年[1月] 『名代干菓子山殿』と松風
- [2月] 『東海道中膝栗毛』とみづから
- [3月] 『和漢三才図絵』と有平糖

昔から変わらぬお菓子。文学の中にどのように登場していたのか、またどのように楽しんでいたのか、興味深いお話です。



(3) 共催事業 (申請件数：2件)

◇「京菓子2020『手のひらの自然一禅ZEN』」

主催：公益財団法人有斐斎弘道館

禅の世界からイメージを膨らませ、新たな感性で表現された京菓子作品の中から(一般応募)から「古典の日推進委員会特別賞」を授与している。

◇「古典の日記念 かるた会通常練習会」

主催：（和歌山）紀の川かるた会

教育・文化週間参加行事として、1年を通じて「小倉百人一首競技かるた」の練習を行い「古典の日」に合わせ練習会を開催している。

(4) 後援、ロゴ・シンボルマークの使用許可申請数

- ・後援：17件
- ・ロゴ・シンボルマーク：7件

(5) 「古典の日」普及・推進活動及び広報活動等

ア ホームページ

- ・アクセス数：33,045件
(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

イ 関係機関広報ツール

- ・府民だより
- ・京都市民しんぶん
- ・宇治市政だより
- ・文化庁関西元気文化圏ホームページ（文化カプロジェクト）
- ・beyond2021

ウ 新聞掲載

京都新聞夕刊 令和2年10月26日（月）



2 京都迎賓館支援事業

京都の伝統技能の粋を集めて建設された京都迎賓館で行われる外国賓客の接遇や参観事業の支援を通して京都の文化の伝統技能やおもてなしの文化を普及する事業である。令和2年度は、コロナ禍の影響により外国賓客の入洛はなく、また、全国各地で開催しているシンポジウムは安心・安全の観点から開催を中止した。

(1) もてなし・しつらいプロデュース事業

京都迎賓館における賓客接遇の際、しつらいの一つとして活用するいけばな文化の

継承・発展のためいけばな協会への支援を行っているが、令和2年度はコロナ禍の影響により中止した。

(2) 京都迎賓館一般公開への支援事業

ア 一般公開期間

令和2年4月1日(水)～令和3年3月31日(水)

※ 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和2年3月21日(土)～令和2年5月27日(水)、令和3年1月13日(水)～令和3年3月7日(日)は一般公開を中止

イ 支援事業

(ア) 京都迎賓館一般公開にかかるPRポスター(B1)を制作し、観光案内所や交通機関に掲示した。また、地下鉄広告ステッカーを制作し、京都市営地下鉄車両に掲示した。

(イ) 京都観光・文化情報コーナーを設置し、府、市、商工会議所等の資料を配布した。

(3) 特別企画「京都迎賓館文化サロン」への企画協力

京都迎賓館を会場に、日本の歴史・文化に関するテーマ毎に京都迎賓館にゆかりのある講師による講演等及びプレミアムなガイドツアーを体験できる特別企画「京都迎賓館文化サロン」への企画協力を行った。

◇第6回「呈茶」

開催日：令和2年9月24日(木)

参加者：90名

- ・裏千家による呈茶体験
- ・通常非公開の「水明の間」を含めた館内ガイドツアー

3 京都創生推進フォーラム事業

例年、京都市からの委託を受け「京都創生(歴史都市・京都の魅力に磨きをかけ、世界へ発信していく取組)」の意義を周知するため、シンポジウムの開催などを実施していたが、令和2年度は、コロナ禍の影響によりシンポなどの事業は中止し、次の事業のみを実施した。

(1) 運営委員会の開催

日時：令和2年4月27日(金)

※ 書面開催

議事：令和元年度の活動について(報告)

令和2年度の活動について(提案)

各運営団体の京都創生に関する取組について(情報交換)

(2) 京都創生推進フォーラムホームページの管理・運営

- ・新規会員の登録
- ・会員名簿の新規登録・修正、リンク切れなどの修正
- ・セキュリティの強化（SSL 暗号化通信に変更）

※ 令和2年度年間ホームページアクセス件数 47,973件

(3) 京都創生推進フォーラム会員管理

- ・会員数 864件（内訳 企業・団体409、個人455）

4 文遊回廊事業

株式会社京都新聞社と共催し、文化と観光をクロスオーバーした、京都を舞台とした文学作品ゆかりの地を巡る「文遊回廊」（紙面掲載）を実施。コロナ禍の影響により5月以降は掲載を見送った。

2017年10月～2020年5月（月1回・毎月第4木曜日掲載）

5 情報誌「四季彩京都」の発行

- ・発行回数：年2回
- ・部 数：春・夏号 50,000部
秋・冬号 50,000部
- ・内 容：社寺・文化財特別公開情報

Ⅱ 国際観光コンベンション事業（公益目的事業）

1 コンベンション（MICE）事業

（1）ウィズコロナ社会における MICE 開催の在り方提案

MICE 関連事業者・専門家などで構成する検討会議を通じて、10月に「ウィズコロナ社会における MICE 京都モデル」を策定。年度内に、第二版を完成させ、この度公開したところである。

感染拡大防止の徹底に向けて、MICE 主催者だけではなく、参加者に留意いただきたい内容を、京都訪問前から MICE 開催後までの一連の流れに沿って紹介するとともに、伝統産業製品を活用した衛生対策等、主催者・参加者の満足度を高め、地域貢献効果も期待できる、京都らしい MICE 開催の在り方を提案した。

（2）プロモーション事業

○ 海外プロモーション活動

例年、欧州で開催される MICE 専門見本市「IMEX Frankfurt」と「IBTM World」では、京都ブースを設け、京都市内事業者と出展していたが、令和2年度は新型コロナウイルスの世界的な蔓延を受け、「IMEX Frankfurt」は中止、「IBTM World」は完全ウェブ開催となったことから、「IBTM World」にてバーチャル出展した。

[IBTM World 2020 Virtual 出展]

（2020年12月19日～21日 スペイン・バルセロナ）

- ・総参加者数 延べ8,300名/団体
- ・出展者数 700名/団体以上
- ・KCVB商談件数：49件



○ 国内プロモーション活動

コロナ禍の影響により、多くの誘致中案件では誘致活動が中断されていたが、オンライン等で誘致活動を続ける国内主催者と連絡を取り合い、支援を継続。その結果、9月には3件の案件の誘致に成功した。

今年度新たに創設した、「安心・安全な MICE 開催支援（MICE 主催者向け）補助金」や、「令和2年度大規模コンベンション開催支援助成金」等、豊富な支援制度を周知し、安心・安全な MICE 誘致・開催支援に取り組んだ。

（3）開催支援事業

① 政府関連特定会議等の京都開催への運営協力

[第17回科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STSフォーラム)]

- | | | |
|------------|------------------------|---------|
| 公開シンポジウム | 2020年10月3日 | オンライン開催 |
| 歓迎レセプション | 新型コロナウイルス感染症拡大を踏まえ実施せず | |
| 京都エクスカージョン | 新型コロナウイルス感染症拡大を踏まえ実施せず | |

② 京都スマートシティエキスポ 2020、2021 への運営協力

京都スマートシティエキスポ 2020 はコロナ禍の影響により、一部の併催イベントを除きオンライン開催となったが、準備委員会や運営協議会、事業者選定会議など積極的に京都府と連携することにより開催後方支援を行った。

③ オール京都体制で誘致した会議の開催支援

[第 14 回国連犯罪防止刑事司法会議（京都 kongress）]

開催期間：2021 年 3 月 7 日～12 日

同会議は、コロナ禍のため昨年 4 月から本年 3 月に延期して開催された。海外参加者は政府の特別措置により閣僚級とその随行者のみが入国を許され、オンライン形式とのハイブリッド方式で、ウィズコロナ社会において国連本部外としては初めての大型国際会議となった。

本財団が地元支援組織の事務局を担っており、本会議の誘致活動から開催に至るまで、会議を成功につなげるべく、開催機運醸成や広報など様々な側面支援を実施した。特に海外参加者に対しては、感染症拡大防止のためレセプションやエクスカーションに代えて、市中の料亭等の弁当や宇治茶等の提供、芸舞妓演舞、伝統工芸展示、観光映像配信等によりおもてなしを行った。

3 月 7 日の会議初日には「京都宣言」が採択され、世界中で国際会議が停滞する中、日本国内のみならず世界に対して京都の名前と国際的な指針が発信された。

なお、本会議に先立ち 2 月 27 日～28 日には、法務省主催のプレイベントである「ユースフォーラム」が国際会館で開催された。海外留学生を含む 150 人に対し、地元支援組織として、コンベンションパス、参加記念品及び瓶入り玉露「玉兎」等を配付し、会議の側面支援を行った。

④ 感染拡大防止対策を万全に講じた会議の開催支援

[第 57 回日本リハビリテーション医学会学術集会]

開催期間：2020 年 8 月 19 日～22 日

ソーシャルディスタンスを考慮した余裕ある会場のレイアウトを活用し、国立京都国際会館と連携し、芸舞妓によるお出迎えや西陣織の着物展示に向けた支援を実施。コロナ禍においても現地参加された約 880 名の参加者に対して、京都の文化を直に感じていただける機会を提供した。

また、約 4、000 名のオンライン参加者（延べ視聴数は約 44、000 回）に対しても、これら取組みを含めた京都の魅力を発信した。



⑤ 現地開催から「完全WEB開催」に変更になった案件へ京都の伝統文化活用促進
[第29回人工知能国際会議（IJCAI-PRICAI 2020）]

開催期間：2021年1月7日～15日

元々、2020年7月横浜開催予定だったが、コロナ禍の影響で、2021年1月に延期となり、延期先の開催地として京都を内定いただいていたが、新型コロナ感染症拡大の状況に鑑み、「完全WEB開催」として実施することが決定した。

他方、オンライン参加者の皆様に「京都らしさ」を感じていただくべく、京都の文化プログラム配信を提案。主催者に採用いただき、妙心寺退蔵院での坐禅体験の同時配信や、芸舞妓の舞披露等を配信。完全WEB開催という形態であっても、当財団の開催支援を通じて、MICE開催による地域経済への貢献を果たした。

⑥ MI案件・展示会（E）の開催支援

京都の都市格に相応しい大手企業や組織が主催するMICEの京都開催を支援した。

10月1日～2日、国内大手出版社による雑誌の周年記念招待旅行が実施され、積極的なセールスにより、「MICE向け京都伝統産業製品貸出制度」を活用いただいた。具体的には、参加者全員が、京真田紐ネックストラップと京友禅パスケースを身に付け、市内非公開寺院にて文化プログラムを楽しまれた。加えて「京都らしいMICE開催支援補助制度」および「安心・安全なMICE開催支援（MICE主催者向け）補助金」の活用により、感染拡大防止対策の徹底を行うと同時に、京都の文化に触れていただく機会の創出に繋がった。

11月10日～11日には、金戒光明寺にてジェトロ京都主催の「デザイン商品バーチャル展示・商談会 in 京都」の撮影が行われた。本件は、ジェトロ京都から会場について提案依頼があり、仕様に合致する金戒光明寺を紹介して実現したもので、京都の伝統産業を中心に45社の京都企業の商品が展示・撮影された。



また、商品の展示のみならず、寺院の魅力も併せて広めていただくべく、2021年2月のオンライン商談会では、3D映像での展示商品の紹介とあわせ、ライトアップされた紫雲の庭など境内のバーチャルツアーが公開される予定である。コロナ禍の状況下でも、京都の産業振興、文化財の活用、文化のPRを行える取り組みとなった。

⑦ オフサイト・レセプション等の企画・提案

（公社）京都市観光協会と連携しながら、開催地ならではのユニークな施設・会場（オフサイト・レセプション）の企画・提案を行った。智積院や菊の会京都文化交流会館など新たな施設との連携が強化された。

（4）各種支援制度の運用状況等

① 助成金

(7) 大規模国際コンベンション開催支援助成金の活用（京都市）

[申請案件（2020年度申請(認定)分）]

会議名	参加者	開催予定年度	認定額 (万円)
第26回国際膵臓学会	1,550名	2022年度	300
世界超音波医学学術連合 第20回大会	6,000名	2025年度	400
2027 IEEE International Symposium on Antennas and Propagation and USNC - URSI Radio Science Meeting	1,500名	2027年度	300

[2020年度交付案件] なし

(1) 大規模国際コンベンション誘致支援助成金の活用（京都市）

会議名	参加者	開催予定年度	認定額 (万円)
世界超音波医学学術連合 第20回大会	6,000名	2025年度	100

(7) 令和2年度大規模コンベンション開催支援助成金の活用（京都市）**新設**

利用件数：11件 支援金額：22,000,000円

会議名	参加者	開催期間	認定額 (万円)
第57回日本リハビリテーション医学会学術集会	1,000名	8月19日~22日	300
第99回日本消化器内視鏡学会総会	3,000名	9月2日~4日	250
第104次日本法医学会学術全国大会	520名	9月24日~25日	100
第22回日本医療マネジメント学会学術総会	2,600名	10月6日~10月7日	250
第58回日本癌治療学会学術集会	5,870名	10月22日~24日	250
第36回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会	1,200名	11月19日~21日	250
第56回日本小児循環器学会総会・学術集会	2,000名	11月22日~24日	100
日本臨床神経学会生理学術大会第50回記念大会	1,997名	11月26日~28日	150
第42回日本呼吸療法医学会学術集会	620名	12月20日~21日	150
第82回耳鼻咽喉科臨床学会	1,000名	12月24日~25日	150
第30回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会	2,311名	3月19日~20日	250

※開催日順

(I) 安心・安全なMICE開催支援（施設向け）補助金の活用（京都市）**新設**

利用件数：55件 支援金額：35,537,000円

(II) 安心・安全なMICE開催支援（MICE主催者向け）補助金の活用（京都市）

新設

利用件数：20件 支援金額：4,551,000円

- (カ) 「京都らしい MICE 開催支援補助制度」の活用（京都市） 上限額・補助率拡充
 利用件数：6 件（うち伝統産業製品 4 件(文化プログラムとの併用 1 件を含む)）
 支援金額：2,851,649 円（うち伝統産業製品支援：1,783,700 円）
- (キ) 中・小規模 MICE 開催支援助成金の活用（京都市） 上限額拡充
 利用件数：7 件 支援金額：2,075,000 円
- (ク) 「京の修学旅行 3 密防止対策等支援事業」の活用（京都府） 新設
 利用件数：236 件 支援金額：50,649,000 円
- (ケ) 「京都府 MICE 開催支援助成制度」の活用（京都府）
 利用件数：0 件 支援金額：0 円
- (コ) MICE 向け京都伝統産業製品貸出制度の活用
 利用件数：3 件

② その他の支援サービス

- (ア) 京都コンベンション・パス(地下鉄・市バス特別乗車券)の発行
 利用件数：2 件 発行金額：967,000 円
- (イ) 京都イメージバンクの活用
 利用件数：32 件
- (ロ) 公開シンポジウム等広報支援制度
 利用件数：0 件
- (ハ) 京都開催 PR 用バナー貸出制度
 利用件数：0 件
- (ニ) プロモーション DVD の貸出・提供
 利用件数：0 件
- (ホ) 京都市 MICE デスティネーション PR 映像の貸出・提供
 利用件数：8 件
- (ヘ) 京都ストックフッターライブラリ映像の貸出・提供
 利用件数：8 件
- (ト) 各種広報印刷物等の提供
 利用件数：2 件
 京都観光案内地図(日英併記) ほか

(5) 広報宣伝事業

① メールマガジン(京都観光 MICE ニュースレター)の発行

当財団賛助会員や京都市観光協会会員に加え、商談会、視察、問合せ等で接触する国内外のミーティングプランナー、MICE 主催者に対し、定期的に京都の観光 MICE 関連情報を発信することにより、京都での MICE 開催を意識させ、京都への MICE 誘致促進につなげるためメールマガジンの配信を実施した。

② ホームページによる京都における MICE 関連情報の発信

国内外の MICE 主催者・参加者に対し、MICE 開催都市「京都」の情報発信を行うため、世界中の国際会議や国際学会の主催者や事業者、加えて京都市内の大学関係者の皆様の利便性向上を図った。

(6) MICE 関連情報の調査・収集・検討

① 情報の収集

観光庁、日本政府観光局(JNTO)、日本コンGRESS・コンベンション・ビューロー(JCCB)、ICCA (International Congress and Convention Association 国際会議協会)をはじめ関係団体との積極的な交流を図り、MICE 関連情報の収集に努めた。また各種の海外見本市への参加等を通じて国際的な MICE プレーヤーとのネットワーク強化と情報収集を図った。

② 環境に配慮した MICE 都市の世界的取組への参画

環境にやさしい国際会議の開催を目指して、コンベンションや見本市に関する国際的機関が立ち上げた組織である GDS Index(Global Destination Sustainability Index)に、2016年7月にアジアで初めて参画し、「環境に配慮した持続可能な MICE 都市」としての位置付けの強化に努めている。そうした取組から、同組織加盟都市から開催地を選ぶ MICE の誘致も成功している。

③ 京都大学との協力による国際会議推進

「京都市と京都大学との国際学術都市としての魅力向上に関する連携協定書」(2015年8月締結)に基づき、京都大学と国際会議の推進に関する協議等を継続して実施している。また、各学部の教授会や、研究支援組織の会合等、様々な機会を捉えて、支援施策のPRを行うとともに情報収集に努めている。

④ 京都府警との連携

府警本部警備部と当財団の間で2015年3月に締結した「京都をテロから守る連携協定」に基づき、安心して参加できる国際会議都市・京都のステータスを維持するため情報交換・情報発信を継続して実施している。

⑤ 統計調査・発行

国際会議統計「2019京都で開催された国際会議」発行

2 国際観光事業（京都市観光協会との協働事業）

(1) 海外情報拠点管理運営事業（京都市委託事業）

世界12都市（ニューヨーク、ロサンゼルス、ロンドン、パリ、フランクフルト、マドリード、トリノ・ローマ、シドニー、上海、台北、香港、クアラルンプール）に

において情報拠点（レップ窓口）を設置し、現地の旅行動向等の情報を収集するとともに、マーケティングに基づいた京都観光のPR活動等を行った。

（2）京都市域内統計収集・分析強化

京都市域の68ホテルの協力を得て、国・地域別の宿泊状況調査を毎月実施し、データ月報として発表した。世界最大のホテルデータサービス提供会社、STRとの連携のもと、客室平均単価（ADR）等の情報を国内外主要都市と比較するなどの情報分析を行った。

（3）ウェブサイトの運用事業（京都市補助事業）

外国人観光客向けに13言語で情報発信しているウェブサイト「Kyoto City Official Travel Guide」について、自宅にいながら京都の魅力を感じ、癒しや活力を得ていただくことを目的とした「Stay Home, Feel Kyoto」等の取組を実施した。

（4）ソーシャルネットワークの運用事業（京都市補助事業）

英語 Facebook「Visit Kyoto」ページや、中国のSNS、Weibo（ウェイボー）の京都観光公式アカウントにおいて、京都情報の発信を行った。

（5）海外メディア取材誘致・露出強化事業（京都市委託事業）

海外有力メディア（雑誌、テレビ、ウェブサイト等）の取材誘致受入を推進し、メディアへの効果的な露出により、京都ブランドの一層の向上を図った。特に、世界における新型コロナウイルス感染症の拡大により、海外メディアの来訪での直接的支援が困難な中、現地メディアへの助言や情報提供を充実させ、今後の取材再開に向けたオンライン支援を強化した。（支援件数：20件）

（6）オンラインによる旅行博・商談会事業

国内外で開催されている旅行商談会については、オンラインによる参加を行い、DESTINATIONとしての京都のPRを行うとともに、多くの顧客を有する海外の有力旅行会社関係者に対し、市内の旅行事業者等に関する情報提供を行うなど、海外から京都への旅行商品造成の拡充及びネットワーク構築を図った。

2020年10月 ITB Asia Virtual（シンガポール）

2020年11月 WTM Virtual（英国、ロンドン）

2020年12月 DTTT X' Festival（英国、カンタベリー）

2021年2月 JNTO Japan Showcase（米国、ニューヨーク他）

2021年3月 ITB Berlin NOW（ドイツ、ベルリン）

（7）宿泊施設向け多言語コールセンター運営事業

京都府、京都市、滋賀県、大津市、奈良市との共同により、域内の宿泊施設を対象に、24時間対応の宿泊施設向けの通訳・翻訳サービスを提供した。

(8) 免税対応支援事業（京都市補助事業）

市内免税店を対象に、24時間対応の通訳・翻訳サービスを提供するとともに、相談窓口を運営し、コロナ禍の影響により増えているECサイト等を通じた海外への販売に伴う輸出や輸出免税手続き等の相談対応を行った。また、補助金等の情報をお知らせするメールマガジンの発行や、新型コロナにより加速するキャッシュレス決済の最新状況等に関するオンラインセミナー（計2回開催、計72名参加）の開催により、きめ細やかな情報提供に努めた。

(9) 京都市認定通訳ガイド育成事業（京都市委託・補助事業）

京都観光の専門知識を身に付け、外国語で京都の奥深い魅力を伝えることができる京都市独自の通訳ガイド「京都市ビジターズホスト」第5期生の育成事業を実施するとともに、ビジターズホストを対象としたスキルアップ研修等を実施した。また、ビジターズホストに興味を持つ事業者とのオンライン面談会を実施し、活躍支援を図った。

認定ガイド数 第1期生～第5期生 計241名

(10) 外国語研修実施事業（京都市補助事業）

市内観光事業者の従業員向け外国語研修を実施した。

実績 8回／56名

(11) 旅館活性化支援事業（京都市補助事業）

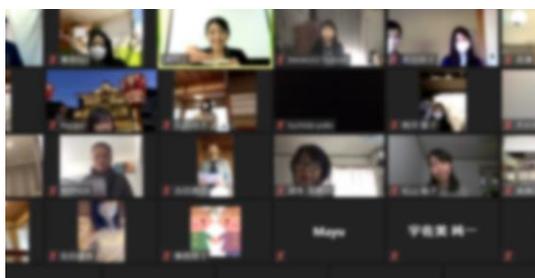
宿泊施設の主に若手従業員を対象に、京都の文化、接遇の基礎知識を学習し、勤務する宿泊施設でのサービス向上につなげるため、研修会を実施した。

時期：令和3年1月～3月

内容：接客サービス、礼法、京ことば、京の伝統の香り、庭園、京料理

参加者数：193名

※ 京都府に緊急事態宣言が発出されたことに伴い、一部をオンラインにより開催



3 広域プロモーション事業

(1) 宇治茶プレミアムブランド化事業（お茶の京都 DMO 委託事業）

令和2年度は、新型コロナ感染症拡大防止のため、宇治茶の試飲など感染拡大につながりかねない取組みは実施できず、具体的なプロモーション活動は実施できなかったが、これまで宇治茶プレミアムブランド化（高付加価値化）に取り組んできた実績を踏まえ、

『お茶の京都 DMO』からの委託事業として、パリの宇治茶愛好・応援ネットワーク組織『Association du thé Uji』（宇治茶愛好会）のメンバーへメッセージを送付した。

Ⅲ その他の事業（公益目的事業）

1 会報誌「京都文化交流コンベンションビューロー通信」の発行

ア 仕様：A4版、4頁（オールカラー）

イ 作成部数：900部

ウ 発行回数：年3回（4月、9月、1月）

※コロナ禍の影響により、例年の7月、10月発行を見送り、9月に臨時号として発行

エ 配布先：賛助会員・関係団体 ほか

2 関係団体との連携等

関係団体と連携し、「京都・花灯路」や「京の七夕」へ主催者団体や実行委員会の一員として参画した。なお、コロナ禍の影響により、事業内容を縮小して実施又は中止となった他、「時代祭」の時代行列巡行は中止となった。

①嵐山花灯路

令和2年12月11日(金)～20日(日)

（竹林の小径ライトアップは中止）

来場者数：38万9千人（今回16回目の開催）

※東山花灯路は昨年度に引き続き中止

②京の七夕

「願いごと」の募集とお焚き上げ（8月16日）のみ実施

応募者数：インターネット 7,296件、郵送 837件

IV 共益・収益事業

1 賛助会員制度の運営

(1) 新規勧誘の促進

平成 24 年度から 5 年連続で大幅に賛助会員を増加させ、23 年度末の 356 件から、28 年度末には 629 件（1.8 倍）まで拡大させた。

しかし、28・29 年度でインバウンド部門を市観光協会へ移管した影響が大きく、その後、MICE を中心により一層加入促進に努めているが、令和元年度は入会より退会が若干上回り、微減した。

令和 2 年度は、コロナ禍の影響を鑑み、会費の納入猶予及び免除・減額を行い、また、加入促進にも努めたが、コロナ禍の影響は大きく、令和 2 年度末の賛助会員は、令和元年度末より減少し、362 件 536 口（特例の減免対象会員（16 口）を含む）であった。

ア 新規加入会員（11 社 12 口）

会 員 名
ホテル呉竹荘京都清水五条
C'S ケータリングサービス株式会社
エースホテル京都
パークハイアット京都
MUNI KYOTO
ユニゾホテル株式会社
株式会社ジェイアール東日本企画
メルキュール京都ステーション
ビーンズDMC 合同会社
ジャパンドリームツアー株式会社
おおきに迎賓館（株式会社花月）

イ 退会会員（32 社 37 口）

会 員 名
株式会社エクスクルーシブ京都
ジェラート・ベネ
株式会社美好園
株式会社イシダ
京都観光企画株式会社
株式会社 JTB コミュニケーションデザイン
アランヴェールホテル京都
株式会社ビッグスマイル
山本興業株式会社
京都かまんざホテル

株式会社梅守本店
洛西工業株式会社
嵐山通船株式会社
株式会社 George P.Johnson
フラットエージェンシー
星のや京都
株式会社渡月亭
京町家 楽遊 堀川五条
株式会社ヒト・コミュニケーションズ京都支店
EXO トラベル・ジャパン株式会社
ビーンズ株式会社
オリエンタルホテル京都ギャラリー
カリグラフィー京都
株式会社エイジェックスコミュニケーションズ
上島珈琲株式会社
ホテル平安の森京都
ジャパンフードエンターテイメント株式会社
株式会社フォーラムジャパン
株式会社アド・ストーリー
鳳電気土木株式会社
株式会社ティーケーピー
株式会社E・A（観光映像の荒川）

ウ 賛助会員数の推移

年度別	会員数	口数
平成20年度末	264	384
平成21年度末	257	374
平成22年度末	255	367
平成23年度末	244	356
平成24年度末	289	507
平成25年度末	297	517
平成26年度末	337	562
平成27年度末	370	601
平成28年度末	398	629
平成29年度末	396	608
平成30年度末	385	591
令和元年度末	383	587
令和2年度末	362	536

(2) 「会員の集い」の開催

賛助会員間の情報交換・相互のネットワーク強化を目的として、毎年開催しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を鑑み、やむなく中止とした。

2 京都迎賓館記念品の販売

京都迎賓館の通年公開に併せ、京都迎賓館での記念品の販売を実施するとともに、京都観光案内ブースを運営。

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、京都迎賓館に参観で来られる方が減少し、更に緊急事態宣言の発令中は一般公開が休止されたため、入館者数が大幅に減ったため、記念品販売額も対前年比で1/4程度にまで減少した。

V 管理運営

1 理事会の開催

(1) 第19回理事会

ア 方法 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第197条において準用する同法第96条（公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー一定款第31条）に基づく理事会決議の省略の方法により開催

イ 議事 第1号議案 副理事長の選定に関する件
第2号議案 令和元年度事業報告に関する件
第3号議案 令和元年度決算に関する件
第4号議案 令和2年度収支予算の補正に関する件
第5号議案 賛助会費規程の一部改正に関する件
第6号議案 評議員会の開催に関する件

(2) 第20回理事会

ア 日時 令和3年3月4日（木） 午後2時～3時

イ 会場 からすま京都ホテル 双舞の間

ウ 出席者 理事12名、監事2名

エ 議事 第1号議案 理事の選任を評議員会に諮る件
第2号議案 令和3年度事業計画に関する件
第3号議案 令和3年度収支予算に関する件
第4号議案 令和2年度収支予算の補正に関する件
第5号議案 「京都MICE 基金」運営要綱の制定に関する件
第6号議案 特定資産「京都MICE 基金積立資産」取扱規程の制定に関する件
第7号議案 「就業規程」の一部改正に関する件
第8号議案 評議員会の開催に関する件

2 評議員会の開催

(1) 第19回評議員会

ア 方 法 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第194条及び公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー定款第18条に基づく評議員会決議の省略の方法により開催

イ 議 事 第1号議案 評議員の選任に関する件
第2号議案 令和元年度事業報告に関する件
第3号議案 令和元年度決算に関する件
第4号議案 令和2年度収支予算の補正に関する件

(2) 第20回評議員会

ア 日 時 令和3年3月25日(木) 午後2時～3時

イ 会 場 ANAクラウンプラザホテル 平安の間

ウ 出席者 評議員6名、専務理事1名、監事1名

エ 議 事 第1号議案 理事の選任に関する件
第2号議案 令和3年度事業計画に関する件
第3号議案 令和3年度収支予算に関する件
第4号議案 令和2年度収支予算の補正に関する件

令和2年度事業報告には、定款第8条第1項2号に規定する附属明細書は「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため、作成しない。
公益財団法人 京都文化交流コンベンションビューロー